

次のボトルネックが新たな成長を生む

次世代AI株式戦略ファンド

追加型投信/内外/株式

- 平素は『次世代AI株式戦略ファンド』(以下、当ファンド)に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
- 本レポートでは、当ファンドの運用状況についてご紹介します。

足元の投資環境

6月の世界株式市場は、米国・イランの戦闘終結への期待を背景に地政学リスクへの懸念が和らいだ一方、株価が大きく上昇していたテクノロジー株への利益確定の動きなどから、もみ合いでの推移となり世界株式指数は0.8%下落しました。

AI関連分野では、エージェントAIの普及を背景に、企業によるAI活用が引き続き拡大しています。一方で、市場の関心は「AIを導入すること」から「いかに効率的かつ低コストでAIを活用するか」へと移り始めており、企業では費用対効果を重視したAI活用が進んでいます。また、AIインフラ投資は引き続き高水準で推移しているものの、メモリ価格の上昇などにより設備投資コストが増加しており、ハイパースケーラー各社の投資収益性に対する懐疑的な見方や懸念が台頭しました。

図表1 世界株式指数とS&P500種指数の推移

(期間:2025/6/9~2026/7/21、日次)



※世界株式指数:MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス
※2025年6月9日(当ファンド設定日)を100として指数化(米ドルベース、配当込み)
(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

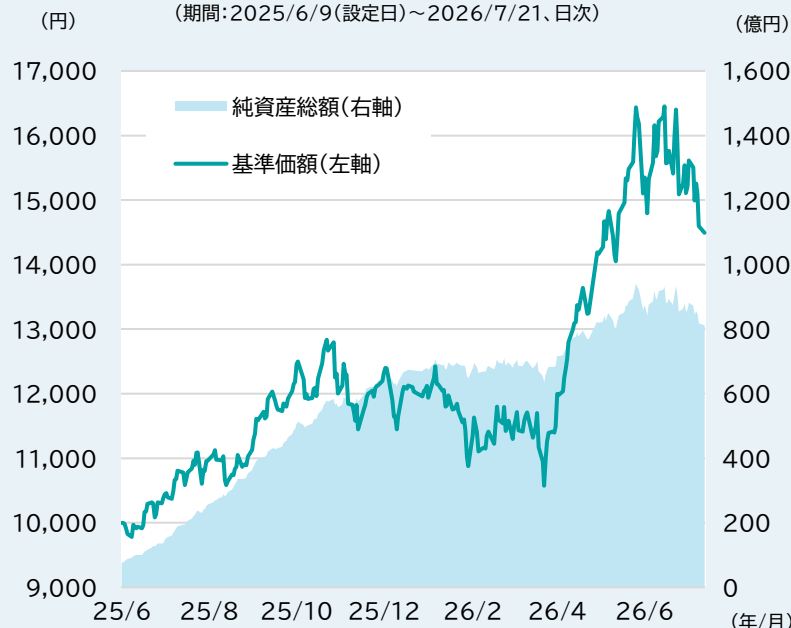
当ファンドの運用状況

6月の基準価額は3.1%上昇しました。当月は次世代AIデータセンター向けの高速通信や半導体製造装置、メモリ関連企業などAIインフラを支える銘柄がプラス寄与となりました。エージェントAIの普及に伴い、データセンター内での高速通信や半導体需要は引き続き堅調に推移しており、関連企業の業績拡大が評価されました。一方で、一部のAIインフラ関連銘柄には、株価上昇を受けた売りが見られたほか、ソフトウェア関連銘柄は、競争環境の変化などへの懸念から調整する場面がありました。

また、当月はスペースXの新規株式公開(IPO)を通じて同社の組み入れを開始しました。現在のスペースXは軌道上データセンターを含むAIインフラ分野で独自の能力を備えた急成長中のハイパースケーラーといえます。将来的には、イーロン・マスクCEOが率いるテスラの自動運転技術などを活用し、フィジカルAI分野において優位な立場を築くことが期待されます。同社は、将来的な半導体開発構想も含め、有力な次世代AIエコシステムを構築するポテンシャルがあると考えています。

図表2 当ファンドの基準価額と純資産総額の推移

(期間:2025/6/9(設定日)~2026/7/21、日次)



※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価上昇および投資先ファンドへの組み入れを保証するものではありません。

※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後

NEXT GENERATION

次世代AI市場における“ボトルネック”

■ 次世代AI時代の主役はGPUだけではない

AIの急速な普及を背景にAI向け設備投資は引き続き拡大しています。その中心となってきたのが、AI学習や推論を担うGPU(画像処理半導体)です。しかし、AIシステムの高度化に伴い、GPUの性能だけを高めてもAI全体の性能を十分に引き出せる時代ではなくなりつつあります。AIモデルの大規模化やエージェントAIの普及により、処理するデータ量や通信量が飛躍的に増加しているためです。

その結果、AIの性能を左右するのはGPUだけではなく、ネットワーク・メモリ・電力・冷却・データ基盤などAIを支える様々な領域へと広がり始めています。

■ “ボトルネック”が次世代AIの進化を左右する

AIシステム全体の性能は最も処理能力の低い部分、いわゆる“ボトルネック”によって決まります。どれだけ高性能なGPUを搭載しても、データを送るネットワークが遅かったり、十分な電力を確保できなかったりすると、GPUは本来の性能を発揮できません。そのため現在では、図表4で示したようなネットワークやメモリ・電力・冷却・データ管理・基盤などAIを支える様々な要素がAIの性能を左右する重要な役割を担うようになっていきます。

■ “ボトルネック”が生む新たな成長領域

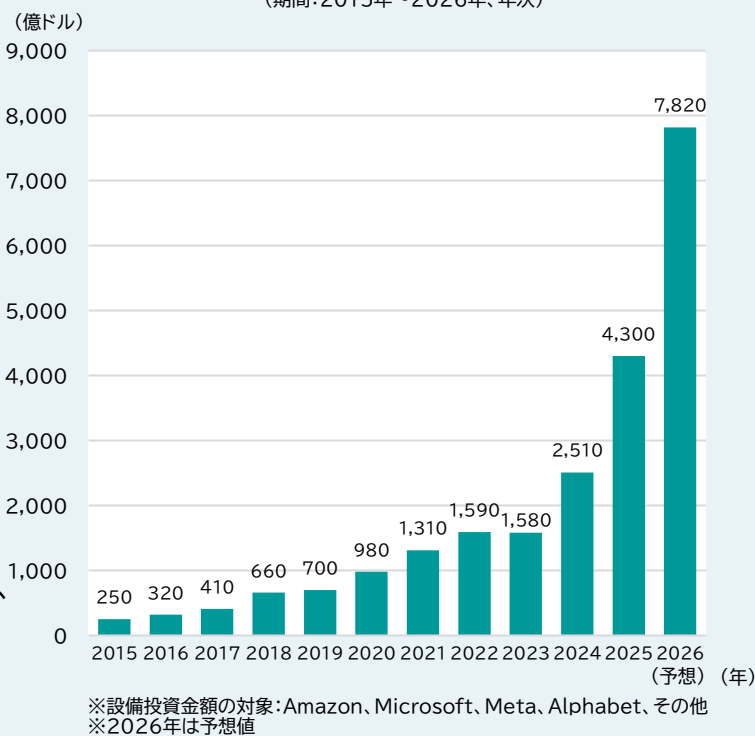
そして次世代AIの普及が進むほど、こうした次の“ボトルネック”を解消する技術や企業の重要性は一段と高まっていくと考えられます。“ボトルネック”は一つの領域に留まることなく、次々と遷移していきます。GPUの性能向上によって処理能力が高まれば、今度はネットワークやメモリなどが新たな“ボトルネック”となります。そして、それらの課題が解決されると次はデータ基盤やソフトウェアなど、より上位の階層へと課題は移っていきます。

つまり次世代AIの進化は一つの技術だけが成長するのではなく、次世代AIエコシステム全体へと成長の波が広がっていくプロセスともいえます。

こうした変化は、新たな成長企業が生まれる機会でもあります。実際、これまで市場の注目を集めてきた半導体企業に加え、ネットワークや電力など様々な分野の企業がAI市場の成長を支える存在として重要性を高めています。

図表3 ハイパースケーラーのAI向け設備投資金額

(期間:2015年~2026年、年次)



(出所)BNPパリバ・アセットマネジメント

図表4 次世代AI革命を左右する“ボトルネック”

関連技術		役割
1	 GPU	AIの計算処理を行う頭脳。学習・推論のスピードと規模を決める。
2	 ネットワーク(通信)	GPU同士やサーバー間でデータを送る。通信帯域と遅延が性能を左右。
3	 メモリ	GPUがデータを一時的に置いておく場所。容量と帯域幅が処理の流れを決める。
4	 ストレージ	学習データやモデルを保存。読み書き速度がデータ供給を左右。
5	 電力	AIサーバーを動かすエネルギー源。安定供給と効率がシステムの限界を決める。
6	 冷却(温度管理)	高温になったサーバーを冷やす仕組み。温度が上がると性能が自動的に制限される。
7	 データ管理・基盤	データ整理・統合・アクセスを行う基盤。データの質と活用効率を支える。
8	 セキュリティ	データやシステムを脅威から守る仕組み。信頼性確保と継続運用のため必要。

(出所)BNPパリバ・アセットマネジメント

NEXT GENERATION

今後の運用方針

当ファンドでは、次世代AI市場の成長をエコシステム全体で捉えています。次世代AI市場では、ボトルネックが解消されるたびに新たな課題が生まれ、それを解決する企業が次の成長を担います。そのため、市場の主役はAIの進化とともに変化していく可能性があります。こうした環境の中で、当ファンドは半導体のほか、ネットワーク、電力、データ基盤などのAIインフラ企業や、AIを活用して新たな価値を生み出すAIイノベーター企業まで幅広く投資しています。今後も次世代AI市場の変化を的確に捉えながら、次世代AIエコシステム全体の成長を幅広く取り込むことを目指しています。

当運用チームでは、次世代AIを社会や産業の在り方を大きく変える「汎用技術」として位置づけており、今後も長期的な成長機会が続くと考えています。当ファンドは、今後数年間にわたるAIの成長の恩恵を取り込むよう構築されています。そして、市場環境に合わせて、次世代AIインフラと次世代AIイノベーターの双方に柔軟に投資することで、今後も次世代AI市場の成長を取り込んでまいります。次世代AI市場の発展にはインフラの進化は不可欠ですが、その価値を最終的に収益へと転換するのはイノベーター企業です。だからこそ私たちは、次世代AIの恩恵はインフラだけでなく、それにより収益化を実現する企業にも広がると考えており、両分野への投資を通じて中長期的な成長機会の獲得を目指します。

銘柄紹介

■ サイタイム (米国、情報技術)

AIサーバー全体の動作を支える「高精度タイミング」企業

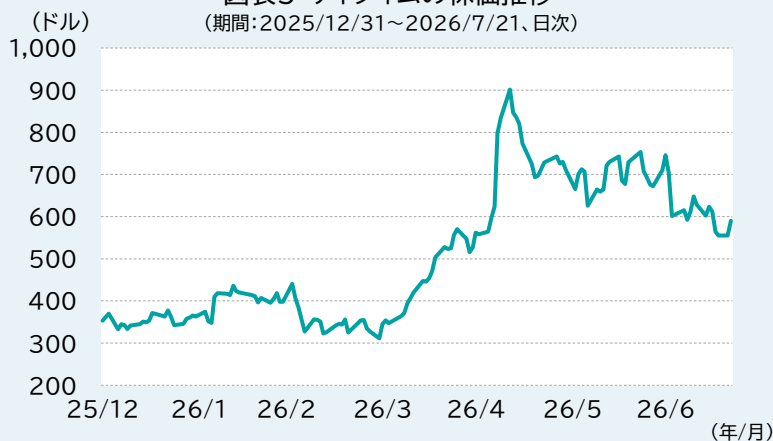
同社はAIサーバーや通信機器向けに高精度なタイミングデバイスを提供する企業です。AIサーバーではGPUやCPU(中央演算処理装置)など多数の半導体が同時に動作するため、わずかなタイミングのずれでも性能低下に繋がりますが、同社はシステム全体を高精度に同期させることで、この課題を解決します。また、AIデータセンターでは求められる性能水準が高まっており、同社の技術優位性が期待されています。

■ モノリシック・パワー・システムズ (米国、情報技術)

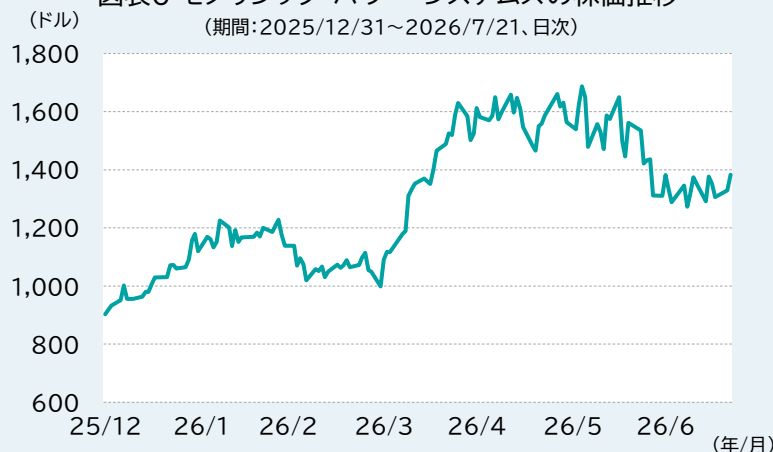
AIサーバーに安定した電力を供給する電源制御企業

同社は、半導体向けの電源管理IC(パワーマネジメントIC)を開発する企業です。AIサーバーやGPU、通信機器など電力効率が重要な分野で幅広く採用されています。AI向けGPUは消費電力が大きく、安定した電力供給が不可欠です。同社はGPUへ効率よく電力を供給し、AIサーバーの性能を最大限に引き出します。さらに高効率な電源管理技術により、省電力化と高性能化を両立します。AIデータセンターの電力需要拡大の恩恵が期待されます。

図表5 サイタイムの株価推移
(期間:2025/12/31~2026/7/21、日次)



図表6 モノリシック・パワー・システムズの株価推移
(期間:2025/12/31~2026/7/21、日次)



※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

(図表5~6の出所)Bloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

販売会社一覧

2026年7月29日現在



受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。
 なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○

委託会社 お問い合わせ先	電話番号 03-3516-1300(営業日の9:00~17:00)	ホームページ https://www.sbiokasan-am.co.jp
-----------------	--------------------------------------	---

次世代AI株式戦略ファンドに関する留意事項



投資リスク

基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「特定の業種・テーマへの集中投資に係るリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。その他の変動要因は、「カントリーリスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
- 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消することがあります。

お客様にご負担いただく費用

- 購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
 - 換金手数料：ありません。
 - 信託財産留保額：ありません。
 - 運用管理費用（信託報酬）：純資産総額×年率1.2925%（税抜1.175%）
 - 運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担：純資産総額×年率1.826%（税抜1.66%）程度
※実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
 - その他費用・手数料：監査費用〔純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）〕
有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

<本資料で使用しているインデックス>

- MSCI ACWI IndexはMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。



商号等：SBI岡三アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。